

ドキュメンタリー映画

「おもかげ復元師」上映会へのお誘い！

今年は元日からの能登半島地震に恐れ慄きましたが、その被害の甚大さには打ちのめされる思いがしました。如何に地震大国日本だとしても、またかの思いは拭えません。この寒空と大雪のなか、辛い思いをされている被災地の復興と被災者の皆さんが普通の生活に戻れることをひたすら祈らずにはおられません。

さて来る2月25日(火)14時よりドキュメンタリー映画「おもかげ復元師」(51分21秒)の上映会を盛岡大通り・コミュニケーションギャラリー・リリオ3階イベントホールにて行います。

私が10年前にプロデュース製作した震災ドキュメンタリー映画「灯り続け街の明かり」に続く第2作目になります。

前作の主人公である岩手県宮古市の後藤泌尿器科・皮膚科医院院長である後藤康文氏より相談を受けて製作した映画になります。

この映画の主人公である笹原留似子さんは1972年、北海道札幌市生まれ。現在は岩手県北上市で納棺業・株式会社「桜」の代表を務めています。東日本大震災ではボランティアとして津波や火災で損傷した300人以上のご遺体の復元を献身的に行なっています。現在は納棺業のかたわら被災者支援の活動や講演活動を数多く行なっています。

彼女の出自は祖父が山伏で母がイタコでお坊さんという珍しい家系に育ち、また過去に北海道神宮の巫女長を務め看護師の経験もあるといいます。私は初めてお会いした時から、あの明るく笑顔を絶やさない人柄の反面、どこか不思議な力を持った女性とし

での印象を持ち続けています。

「復元納棺師遺族を思い活動」（読売新聞記事より抜粋）昨年
の4月6日沖縄海上で消息を絶った陸上自衛隊ヘリコプター、深
海で機体とともに発見された6名のご遺体は笹原さんが技術指導
した納棺師たちが復元に当たっていました。その困難さから急遽
呼ばれた笹原さんは「3.11の震災で活動してくれた隊員がいるか
も知れない。恩返しに元の姿に戻して家族に帰してあげたい」と
の思いで引き受けたといいます。亡くなった隊員の棺を出迎え
「おかえりなさい」と声をかけていました…。

以上のエピソードからも災害経験者だからこそでき得る活動で
あり、ここにも彼女の優しさと災害支援への厚い思いと行動力の
凄さに私は感心しています。

今回の能登半島地震の際もスタッフとともに災害支援のために
現地へ赴き今なお活動されていると聞いています。

以上のように新年から重い題材の映画で恐縮ですが、このところ
色々と新聞その他で話題にのぼる死生観について、この映画を通して
考えてみては如何でしょうか。

私は歴史的に震災の多い岩手県という地域に育ち、年齢も80歳を
迎えたことから、何か地域のためになることをしなければという思い
で前作に続く今回の「おもかげ復元師」を製作しています。

コミュニケーションギャラリー・リリオ 3階イベントホールは
120席というキャパを持った上映施設です。私は第一回の公開上
映会を出身地の盛岡でと考えました。是非多くの方々にご覧いた
だきたく、どうか近くにお声がけしていただき連れ立ってのご来場を
お待ちしております。

映画「おもかげ復元師」

製作委員会 代表 瀬川 徹 夫

〒195-0039 東京都町田市藤の台3丁目3-207

TEL 090-3510-4000

tsegawa1@mac.com

リリオ アクセス



- 〒020-0022
- 住所:岩手県盛岡市大通一丁目 11-8
- 電話:019-623-2520
- FAX:019-623-7135